相ノ木っ子だより

令和４年度
５月号
上市町立
相ノ木小学校

学びの原動力となる知的好奇心

「相ノ木小学校って何歳ですか？」

生活科「学校探検」の学習で校長室を訪れた１年生が、わたしに質問してきました。学校の前身を遡っていけば、明治創立の照徳小学校がスタートとなり、相当長寿となる相ノ木小学校の年齢です。「うーん、最初の学校は明治生まれなんだけどなー」と言うと、ある女の子が、「わたし、明治知ってる。その前は江戸だよね」と反応しました。なかなかに物知りです。ですが、ちょっと１年生には想像しにくいので、上市町立相ノ木小学校となった昭和 29 年生まれがよいと思い、「だいたい 70 歳だね」と答えました。また、現在の場所に移転したのが昭和 53 年でしたので、「この校舎は、45 歳ぐらいだよ」とも話しました。子供たちは、疑問の解決に向け、一生懸命メモを取りながら話を聞いていました。

校長室に一人ずつ入ってきて横並びになった１年生たちは、きときとの目をしてわたしに向かいました。そして、やや緊張した面持ちで、たどたどしくも丁寧な挨拶をしてくれました。その時から、わたしという人間、校長室という空間に興味津々な様子でもありました。他にもいくつか質問し、校長室内を見学して、疑問を解決したり、気付いたことを書き加えたり、学びを増やしていきました。この後も、たくさん学校内外を探検し、自分の気になること、興味をもったことをどんどん調べていくことでしょう。そうした子供たちの姿を見ると、やはり好奇心というのは素敵なものだとつくづく思います。

漫画家の手塚治虫さんは、次のように言っています。

なにか謎があって、その謎を調べないと気が済まないという気持ち。

この好奇心を持ち続けている限り、人間は生き甲斐を感じるのではないか。

「これって何かな。おもしろそうだ。どうしてだろう」といった思いは、学習における大きな原動力となります。好奇心旺盛に何かを追究し続けることが、子供たちのより生き生きとした成長につながり、やがて活力ある人生を送っていく源となります。ただ、気を付けなければならないのが、好奇心にとらわれ過ぎて、周りのことが見えなくなってしまうことです。「交自水火万人」の合言葉で子供たちに指導している生徒指導や安全面で、好奇心が子供たちの生活にマイナスに働くことが懸念されます。純粋な好奇心からの行動であるかもしれませんが、子供たちの安全・安心が脅かされたり、人としてのルールを守れなかったりすることがないようにしたいものです。例えば、原則的な自転車のきまりを守らなかったり、川遊びでの田の戸板外しであったりといったことです。なお学校では、校区の交通状況や子供たちの運転技術・発達段階を踏まえて、原則として低学年は家の近所、中学年は町内、高学年は校区内の自転車の乗る範囲としています。ご家庭でも話し合いの場をもっていただき、自分の命を危険にさらす、他者に迷惑をかけるといったことが起きないよう、周囲を見渡しながら好奇心溢れる充実した日々を子供たちに送ってほしいです。

また、ＳＦ作家の星新一氏は、次のように言っています。

学問のもとは、好奇心。

好奇心を育てるようにしておけば、優れた人物も自然に育ってくる。

重要なのは、単なる好奇心で留まるのではなく、学びにつながる物事の知識や理解をもっと深めたい、知りたいという欲求、つまり知的好奇心というものへと醸成すること、それを子供たちの中に育てていきたいです。そのためには、好奇心をどれだけくすぐってあげられるか、好奇心を膨らませていかに学びに向かわせられるか、もっと言えば、わたしたち自身が常に好奇心をもち続け、子供たちの手本となることができるかが、大事です。一つのことに集中しようが、広くいろいろなことを探ろうが、もっともっと「知りたい」「調べたい」がもてる相ノ木っ子たちであってほしいです。

今年も変わらぬ美しさを眺めながら

「校長先生、髪染めた？」

朝校門で子供たちと挨拶を交わしていると、３年生の男の子が、わたしにそう声をかけてきました。ロマンスグレーも悪くないからと、白髪を伸ばし放題にしていためんどくさがり屋のわたしですが、「真っ白だと髪パサパサになるから、染めた方がいいよ」という理髪店主の助言もあり、昨年あたりから自分で髪を染めるようになりました。連休中、髪全体が茶色っぽく、生え際も白くなってきたので黒く染めたのですが、そういった変化をちゃんと見てる子がいるんですよね。そして、その気付きをわたしに話してくれるんです。周囲の変化に気付けるということ、また自分の変化に気付いてもらえるということは大事なことですし、心に大きな作用が働くと思います。実際自分の変化を指摘され、気恥ずかしい面もありながら、うれしい気持ちになりました。誰かが自分のことを見てくれている、自分のことに気付いてくれているという実感が、自分の存在感には重要なものとなってくるのでしょう。

さて、まだ多少寒暖の差が激しいですが、５月に入って初夏ともいえる陽気を迎えています。そして、学校では多くの植物が元気な姿を見せてくれています。白とピンクのコントラストが見事なハナミズキ、芝桜の鮮やかなピンク、濃いピンクがぎゅっと詰まったツツジ、今年もたくさんの素敵な花が咲き、変わらぬ美しさがわたしたちの心を豊かにしてくれます。そういった木々や花々の成長や変化をしっかりと見つめ、気付いたことに感銘を受けることは大事なことです。子供たちも、植物を育て、観察する学習や活動をしっかりと進めています。花壇でいろんな種類の花を世話している美化委員会、アサガオの種をまいた１年生、自分で選んだ野菜の苗を植えた２年生、ヒマワリとホウセンカを育てようとしている３年生、種を発芽させ毎朝観察している４年生、バケツ稲を始めた５年生、サツマイモとジャガイモを育てている６年生。

花は一瞬にして咲かない。大木も一瞬にして大きくはならない。
一日一夜の積み重ねの上にその栄光を示すのである。

これは、詩人の坂村真民の言葉です。子供たちは、植物を大切に育て、観察する中で、一日一日の変化を感じ、生命の不思議さ、たくましさ、儚さ等、いろいろな気付きや発見をしていくことでしょう。

また、作家の太宰治は、次のように言っています。

ぽかんと花を眺めながら、人間も、本当によいところがあると思った。
花の美しさを見つけたのは人間だし、花を愛するのも人間だ。

子供たちには、植物だけでなく、自然、人、あらゆる事象に温かな目を向けるように、そして、友達や自分自身の成長や変化をもしっかりと捉えられる相ノ木っ子になってほしいです。

行事予定（５月中旬～６月中旬）

５月　９日（月）　水泳学習(5・6年)
１２日（木）　水泳学習(1・2年)
１６日（月）　水泳学習(3・4年)
１７日（火）　健康運動能力向上支援事業(1・2年)
２５日（水）　給食試食会(1年)
２６日（木）　１・２年校外学習(魚津水族館)

６月　１日（水）　眼科検診　租税教室(６年)
２日（木）　４年ふるさと学習
７日（火）　６年校外学習(埋蔵文化財センター)
１０日（金）　学習参観　教養講座　引き渡し訓練
１４日（火）　健康運動能力向上支援事業(1・2年)
１５日（水）　町児童陸上記録会(５・６年)